

広島市地震被害想定の概要

広島市消防局

本日の説明項目

- 頻発する大規模地震
- 広島市地震被害想定の概要

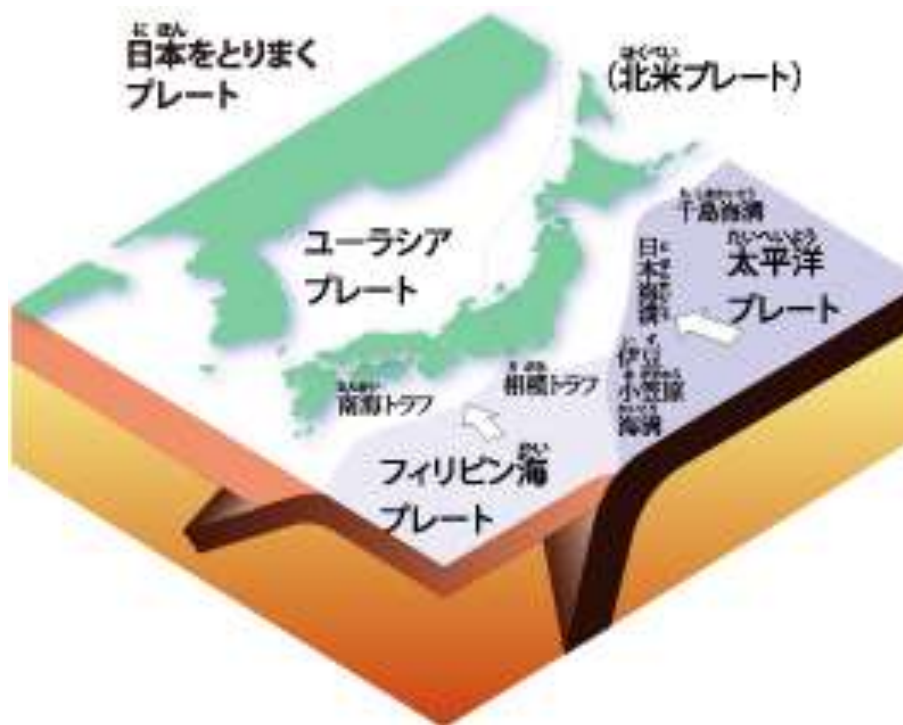
頻 発 す る 大 規 模 地 震

頻発する大規模地震

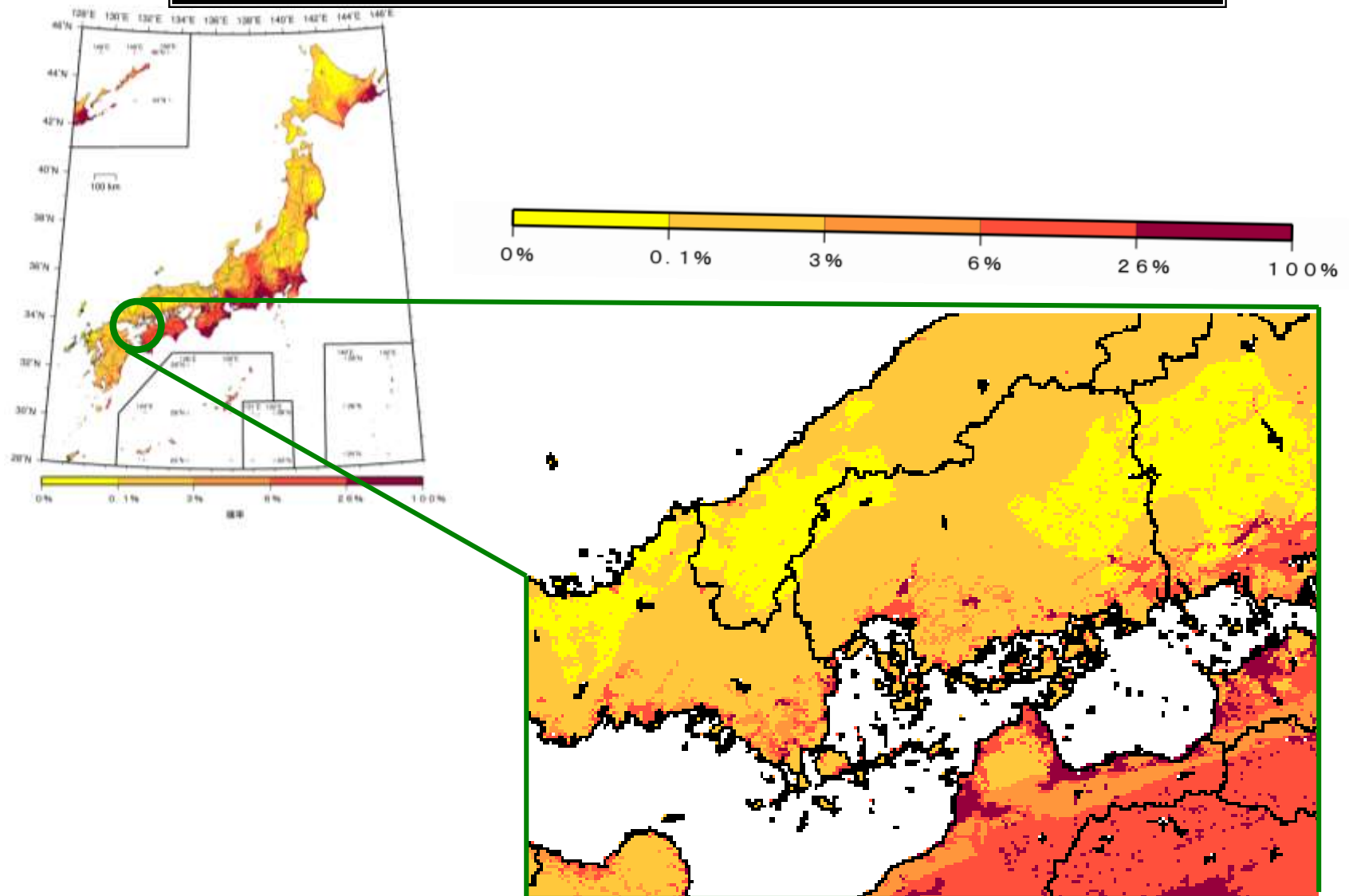
平成15年～24年までの10年間で、「震度7」を2回、「震度6強」を8回、「震度6弱」を10回、「震度5強」を30回の地震を記録している。

平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)	平成17年 (2005年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)
宮城県沖の地震(5月26日) 宮城県北部の地震(7月26日) 十勝沖地震(9月26日)	新潟中越地震(10月23日)	福岡県西方沖の地震(3月20日) 宮城県沖の地震(8月16日)	能登半島地震(3月25日) 新潟県中越沖地震(7月16日)	岩手・宮城内陸地震(6月14日) 岩手県中部の地震(7月24日)	駿河湾の地震(8月11日)	東北地方太平洋沖地震(3月11日) 茨城県沖の地震(3月11日) 長野県・新潟県境付近の地震(3月12日) 長野県北部の地震②(3月12日) 静岡県東部の地震(3月15日) 宮城県沖の地震(4月7日) 福島県浜通りの地震(4月11日) 福島県沖の地震(4月12日)	淡路島付近の地震(4月13日)	福島県浜通りの地震(9月20日) 宮城県沖の地震(8月4日) 福島県沖の地震(5月18日) 三宅島近海の地震(4月17日) 茨城県北部の地震(2月25日) 十勝地方南部の地震(2月2日) 宮城県沖の地震(8月30日) 青森県東方沖の地震(5月24日) 千葉県東方沖の地震(3月14日) 佐渡付近の地震(2月8日) 茨城県北部の地震(11月20日) 熊本県熊本地方の地震(10月5日) 福島県浜通りの地震(9月29日) 日高地方中部の地震(9月7日) 福島県沖の地震(7月31日) 宮城県沖の地震(7月23日) 和歌山県北部の地震(7月5日) 長野県中部の地震(6月30日) 新潟県中越地方の地震(6月2日) 茨城県南部の地震(4月16日) 秋田県内陸北部の地震(4月1日) 福島県浜通りの地震③(3月23日) 茨城県北部の地震(3月19日) 福島県沖の地震(3月11日) 岩手県沖の地震(3月11日)
阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)	釧路沖の地震(11月29日) 根室半島南東沖の地震(12月6日)	釧路沖の地震(1月18日) 千葉県北東部の地震(4月11日) 福岡県西方沖の地震(4月20日) 千葉県北西部の地震(7月23日) 新潟県中越地方の地震(8月21日)	三重県中部の地震(4月15日) 神奈川県西部の地震(10月1日)					

地震発生のメカニズム



2013年から30年間に震度6弱以上の揺れにあう確率の分布図



地震災害の特殊性

1 不確実性

いまだ発生を予知できない

2 瞬時性

発生後すぐに被害規模が決まる

3 複合性

被害の態様が複雑多様

4 未経験性

大地震は希なため伝承等が難しい

広島市地震被害想定概要

◎想定目的

- ◆ 想定地震による被害の状況を明らかにし、本市の防災・減災対策の基礎資料とする。
- ◆ 防災・減災対策による被害軽減効果の事例を示すことにより、市民の防災意識の高揚を図る。

◎想定地震の考え方

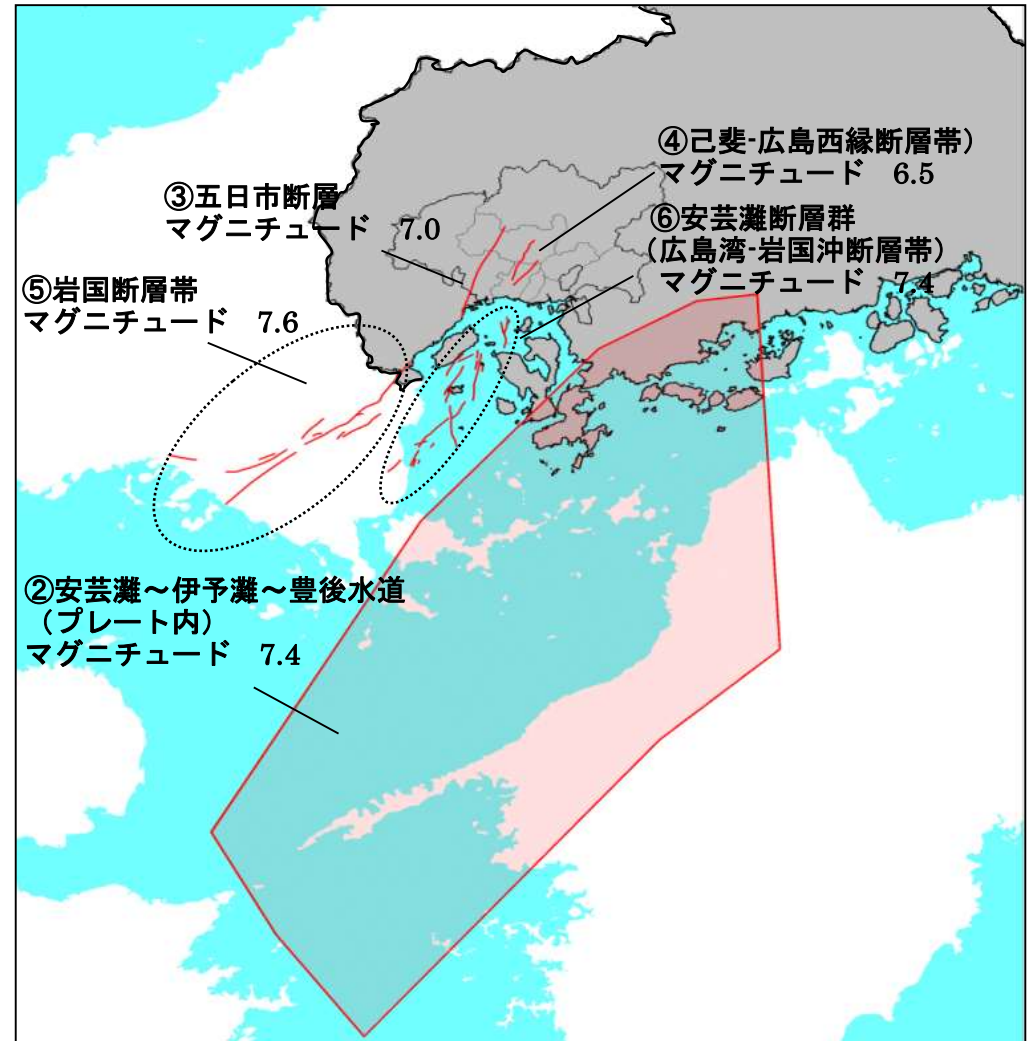
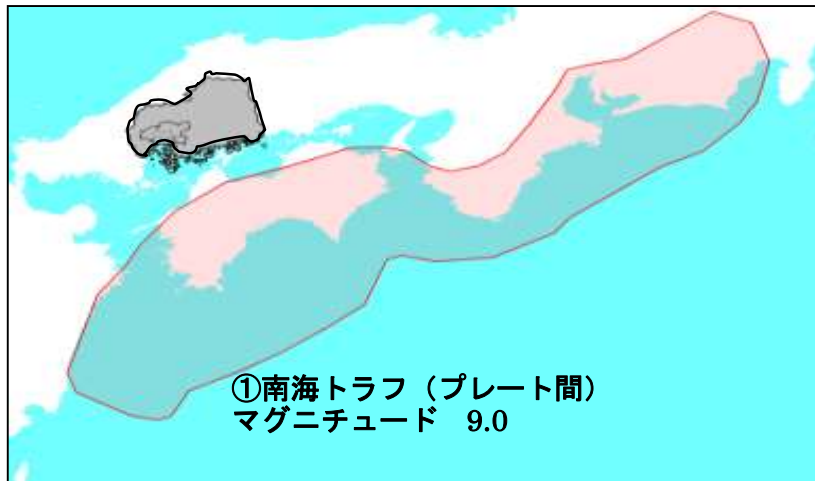
◆ 想定規模

各想定地震ごとに、あらゆる可能性を想定した最大規模の地震・津波としている。

◎想定地震

想定地震	地震 タイプ	マグニチュード	今後30年以内 の発生確率
①南海トラフ巨大地震	プレート間	9.0	—
② 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震	プレート内	7.4	40%
③ 五日市断層による地震	地殻内	7.0	不明
④ 己斐－広島西縁断層帯による地震	地殻内	6.5	不明
⑤ 岩国断層帯による地震	地殻内	7.6	0.03%～2%
⑥ 安芸灘断層群(広島湾－岩国沖断層帯) による地震	地殻内	7.4	不明

広島市地震被害想定における 6地震の震源位置と規模



凡 例

- : 地殻内(活断層)の地震
- : プレート間・内の地震
- : 県界
- : 市界

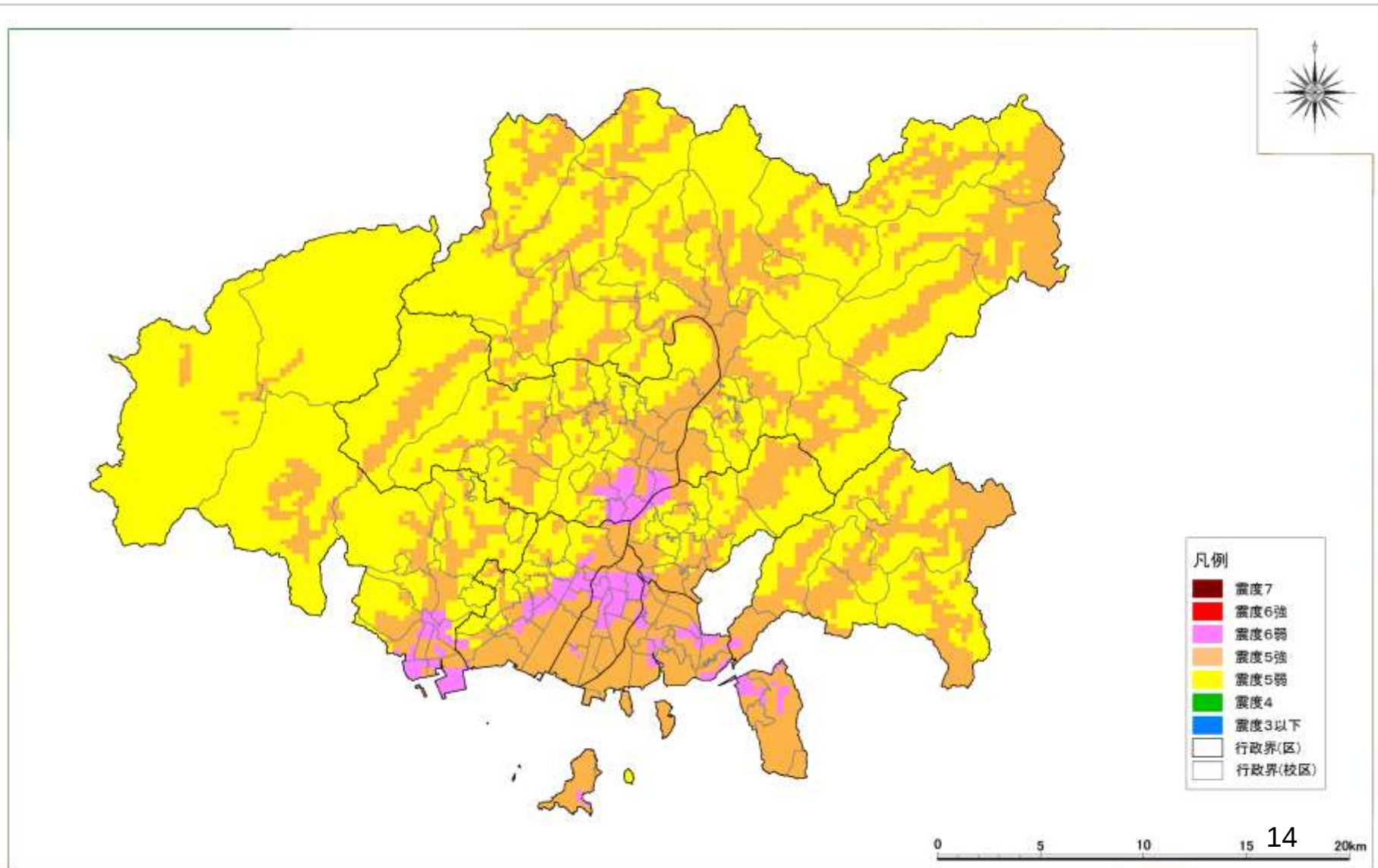
◎発災季節と発災時刻

想定シーン	想定される被害の特徴
冬 深夜 平均:風速 8m/s 最大:風速11m/s	・多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。 ・オフィスや繁華街の滞留者や鉄道・道路の利用者が少ない。
夏 12時 平均:風速 7m/s 最大:風速11m/s	・オフィスや繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。 ・木造建物内滞留人口は、1日の中で最も少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者は冬の深夜と比べて少ない。 ・マリンスポーツなど観光客が多く沿岸部等にいる。
冬 18時 平均:風速 8m/s 最大:風速11m/s	・住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 ・オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。 ・鉄道、道路はほぼ帰宅ラッシュ時に近い状態であり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

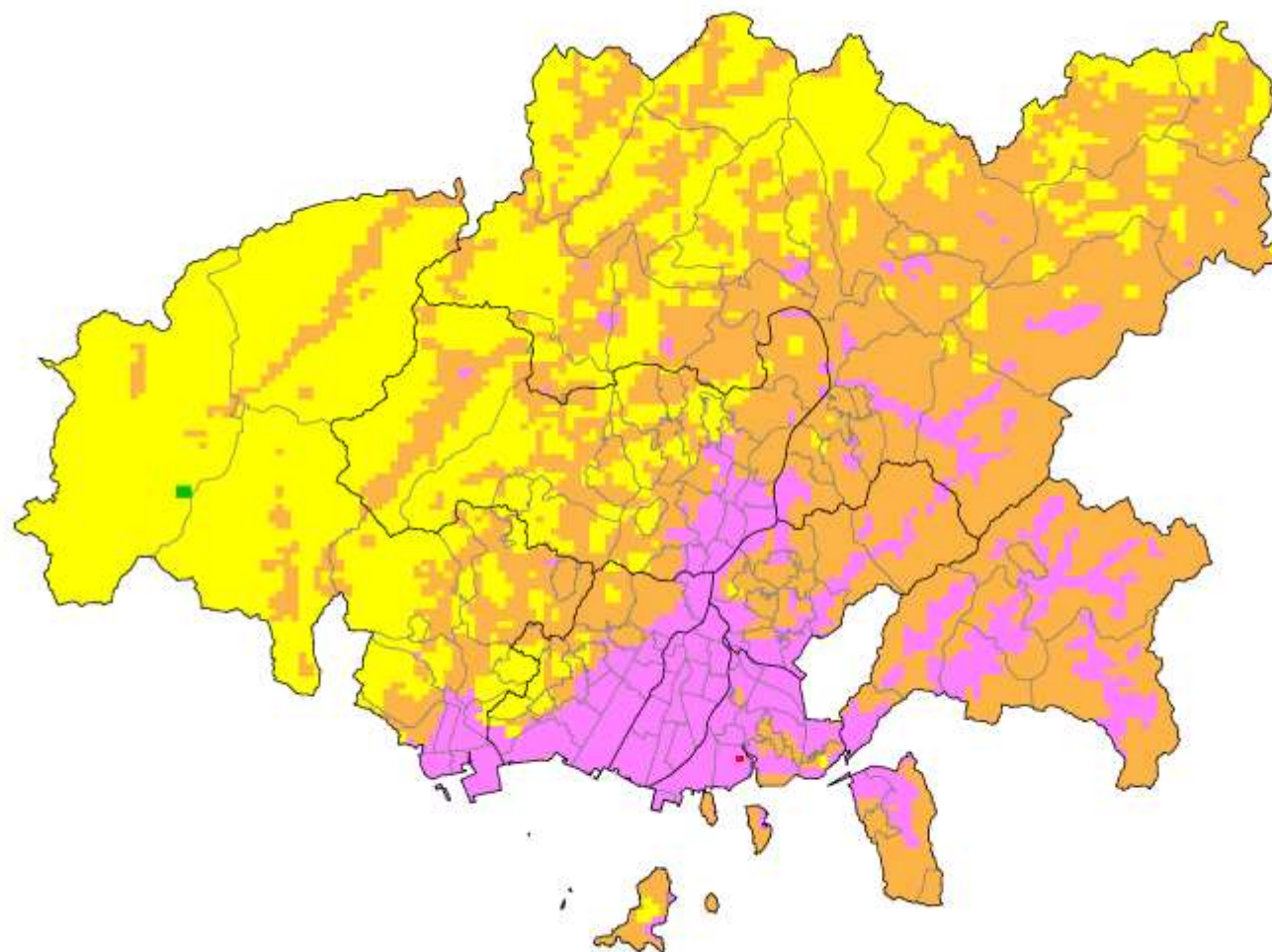
震度分布図

南海トラフ巨大地震

震度分布図



安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震 震度分布図



0 5 10 15 20km